

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A1 現代経済と企業活動		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	現代経済と企業活動 a	現代経済と企業活動 b	
対象学部	多文化社会学部・教育学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	村田 省三	責任部局	経済学部
趣旨	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。		
学生の皆さんへのメッセージ	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
経済活動と社会	村田 省三	経済活動とは生計をたてるための人類の活動の総体である。豊かさとは何か、われわれはなぜ豊かでなくてはならないのか、豊かさを手に入れるために何をすべきか等についてミクロ的に理解する。	貨幣経済、産業革命、市場メカニズム、豊かな社会、市場の失敗
企業の仕組みと行動	宇都宮 譲	自由な経済は自由な企業活動によってもたらされる。そして企業活動が豊かな生活を創造する。企業の基本的な仕組み、企業の行動について理解する。	企業形態、所有と経営の分離、科学的管理法、自律的職場集団
経済政策と公共部門	島田 章	自由経済社会においても、政府は重要な機能と役割を持っている。政府の行動が経済活動に与える影響に注目し、我々の生活圏としての「公共空間」の意味をマクロ的に理解する。	価格メカニズム、市場の効率性・失敗、政府の役割

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
自主的探究	○		◎	○	○		○	◎		◎	○	○	○	◎	○	○
自己成長志向			○					◎	○	◎	○			○	◎	
批判的思考			◎		○				○	◎				◎	○	○
相互啓発志向					○				○	○				◎	○	○
自己表現					○											
行動力					○											
社会貢献意欲																
日本語力																
英語力																
基盤的知識																
環境の意義																
多様性の意義																
人文科学の内容を取り扱う																
社会科学の内容を取り扱う																
現代的な話題を取り入れる																
アクティブ・ラーニングの活用																
◎(特に重視)の数	1	0	2	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	2	1	0
○(重視)の数	1	0	1	1	2	0	1	1	2	0	2	1	1	1	2	2

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A2 環境と人類の持続可能な発展		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	環境マネジメント		
対象学部	多文化社会学部・教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	山下 敬彦	責任部局	産学官連携戦略本部
趣旨	21 世紀市民のコモンセンスとして環境配慮への理解と環境保全に関する基本的な知識を修得し、人類の持続可能な発展 (sustainable development, SD) を実現するための基本的な姿勢を身につけることを目的としている。そのため、環境問題の考え方や環境関連の国際法および国内法の精神を理解するとともに、環境教育・環境コミュニケーションの重要性を理解することを目的としている。		
学生の皆さんへのメッセージ	私達 21 世紀市民が目指すのは、人類の持続可能な発展 (sustainable development, SD) です。そのためには、環境保全に関する基本的な知識が必要です。それらは、21 世紀市民が教養として身につけておくべきコモンセンスです。本モジュールは、そのような観点から環境保全に関する理解と基本的な知識について学習します。		

科目名	担当者名	概要	キーワード
国際環境法	山下 敬彦	環境問題に対する考え方、環境法(国際法)の歴史と特質およびそれらの概要について学習し、環境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神について理解を深める。	環境問題の基本的考え方、人間環境宣言、国際環境法
国内環境法 I	竹下 哲史	日本における環境問題とそれらに対する対策の考え方や歴史、国際環境法との関係ならびに、日本における環境に関する基本的法律である「環境基本法」等について学習し、進むべき方向やとるべき行動等について理解を深める。	日本の環境問題、環境基本法、進むべき方向ととるべき行動
国内環境法 II	久保 隆	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律や環境配慮に関する法律など国内の環境関連法について学習し、環境教育や環境コミュニケーションの重要性について理解を深める。	環境配慮、環境保全、環境教育、環境コミュニケーション

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブラーニングの活用
国際環境法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	○		◎	○	○
国内環境法 I	○	○	○	○	○	○	○	○		○	◎	○		◎	○	○
国内環境法 II	○	○	○	○	○	○	○	○		○	◎			◎	○	○
◎(特に重視)の数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	3	0	0
○(重視)の数	3	3	3	3	3	3	3	3	1	3	0	2	0	0	3	3

※工学部・水産学部に係る JABEE 項目

全学モジュール科目案内

カテゴリー	多様性と共生	モジュール科目区分	全学モジュール I 科目
テーマ名	15-A3 日本を知り、世界を知る		
推奨する全学モジュール II 科目テーマ名	社会と文化の多様性	文化の交流と共生	
対象学部	教育学部・経済学部・薬学部・水産学部		
テーマ責任者	コンペル ラドミール	責任部局	多文化社会学部
趣旨	<p>グローバル化が広く進展している現在、われわれはこれまで以上に「世界を知る」必要に迫られている。そして、このことは必然的に「日本(と日本人)を知ること」をわれわれに求める。なぜなら、他者を理解するためにはまず、自らが何者かという問いに深く思いを巡らさなければならないからである。</p> <p>本モジュールでは、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、世界といった空間軸の間で視野を柔軟に調整しつつ、文化、社会、歴史、宗教、芸術、言語、交流などの視点から世界と日本を考察することによって、多様な他者と同時に多様な自己をも理解することをめざす。そこからグローバル化にともなってい生じている様々な多文化状況に適応する素養と思考力を身につけることが本モジュールの教育目標である。</p>		
学生の皆さんへのメッセージ	<p>グローバル化が急速に進むなかで、われわれは社会的・文化的・言語的に多様性を持つ様々な組織の一員として生活し、働くこととなります。「日本を知り、世界を知る」ことは「他者を理解し、自己を省みると同時に相対化する」ことに繋がる知的な営みであり、またそうした多文化状況で生きていく上で必要不可欠な能力でもあります。本モジュールを受講することで是非そのような力を身につけて下さい。</p>		

科目名	担当者名	概要	キーワード
前近代の日本と世界	佐久間 正	ユーラシア大陸の東辺、太平洋の西辺の島嶼国家日本は、前近代においても、アジアをはじめ列島以外の地域と様々な「交流」が行われており、そうした中で「日本」(遅れて「琉球王国」)が形成されていった。そのような交流の様態と、それとの緊張関係の中で形成されていった「日本」(琉球王国)の特質を国家・社会・文化等の側面から考えてみよう。	近代・前近代 本土国家、琉球王国 中華帝国 土着・外来・日本化 開国・鎖国
近現代のアジアと日本	コンペル ラドミール	沖縄を注視することによって、日本をはじめ東アジアの近現代史における国民国家形成と変容への理解を深め、現代社会の仕組みについての洞察力を鍛える。	沖縄 日本近現代史 政治学
人々の暮らしから見る現代日本	野上 建紀	私たちは「モノ」に囲まれて生活している。そして、「モノ」には個人や家族、社会が反映されている。そのため、「モノ」を観察すれば、その社会背景を知ることができる。授業では、生活に使われた「モノ」の一つである陶磁器の変遷を通して、陶磁器に投影された人々の暮らし(生活、産業)の変化を見ていく。そして、過去がどのように現在につながっているか考える。	遺物 近世考古学 陶磁器 伝統産業

全学モジュールの目標および授業編成の視点との対応	汎用的技能・態度									知識・理解			※授業編成の視点			
	学ぶ力		考える力	関わる力	表現する力		(基盤力)									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	A	B	C	D
	自主的探究	自己成長志向	批判的思考	相互啓発志向	自己表現	行動力	社会貢献意欲	日本語力	英語力	基盤的知識	環境の意義	多様性の意義	人文科学の内容を取り扱う	社会科学の内容を取り扱う	現代的な話題を取り入れる	アクティブ・ラーニングの活用
前近代の日本と世界	○		◎					○		◎	○		◎	○		
近現代のアジアと日本	○		◎	○	○			○	○	◎		○	○	◎	◎	◎
人々の暮らしから見る現代日本	◎		○		○					◎		○	◎		○	○
◎(特に重視)の数	1	0	2	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2	1	1	1
○(重視)の数	2	0	1	1	2	0	0	2	1	0	1	2	1	1	1	1